

シャインマスカット' 商品性向上のための植物生育調節剤処理方法

ブドウ‘シャインマスカット’の商品性向上には、開花前に2 ppmのフルメット溶液の花房散布処理を行った上で、満開期に25 ppmのジベレリン溶液に混用するフルメットの濃度を5 ppmに高めると商品性が向上しました。

ブドウ‘シャインマスカット’は、県内の栽培面積が約20haに増加し、成木化に伴って出荷量も年々増加しています。しかし、房しまり、粒張りが劣ったり、カスリ症の発生した果房も多く出荷されています(写真左)。そこで、フルメット液剤での処理方法の改善による商品性向上効果を検討しました。

これまで、‘シャインマスカット’の植物生育調節剤処理は、満開期にジベレリン(以下GA)25ppm+フルメット3ppm混合溶液の、また満開後10～15日にGA25ppmの各浸漬処理を行っていましたが、この方法では外観品質が劣る傾向がありました。そこで、**展葉8枚期のフルメット2ppm溶液の花房散布処理**を行い、さらに満開期の**フルメット処理濃度を3ppmから5ppmに高めて**処理したところ、房しまり及び粒張りが明らかに向上しました(写真右)。また、特に亜表皮細胞層が厚くなることにより、カスリ症の発生も減少しました(図1)。

しかし、盆前出荷をめざした加温栽培では、展葉8枚期のフルメット2ppm処理によって果穂軸が過度に伸長することによって、逆に房しまりが低下する園がみられることから、その原因解明と対応策について検討中です。

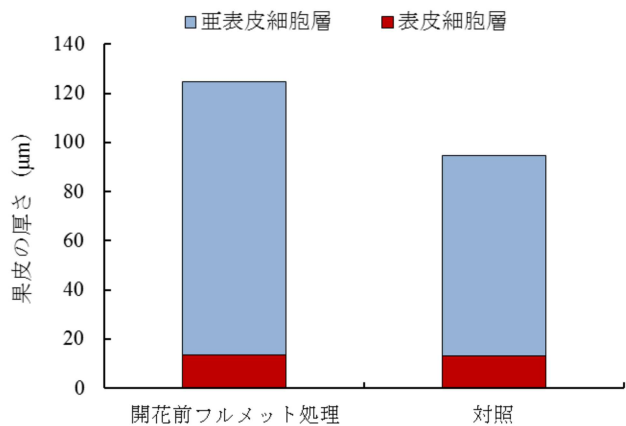


図1 開花前フルメット処理が果皮厚に及ぼす影響



写真上左; 慣行処理果房 写真上右; 展葉8枚期 フルメット2ppm花房散布、満開期GA25ppm+フルメット5ppm
写真下左; 慣行処理果房 写真下右; 満開後15日 GA25ppm処理果房

問い合わせ先: 栽培研究部 果樹科(担当: 持田圭介、内田吉紀)

TEL 0853-22-6981
E_mail: nougi@pref.shimane.lg.jp